

日本医療の課題 - 「保健医療 2035 の 5 提言」の実現可能性の観点から-

1250446 古謝葵

指導教員 上村浩

研究背景

主に高齢化による医療費の増加に起因し、わが国の医療保険制度の崩壊危機に瀕している。この問題は年々深刻化していくため、世界からの評価も名高い日本医療を持続・発展可能にするためには、今こそ若年層の制度や課題に関する理解を深め、認識と行動を変えていく必要がある。しかし、専門性が高い“医療”における問題は、分野知識が必要である場合が多く、一般に、問題を問題として認識するまでのプロセスが長く複雑である。

研究目的

研究背景を踏まえ、本研究は、「保健医療 2035」の 5 つの提言に着目し、その達成が実現可能か否かを多角的に考察し、今後労働力人口の中心を担っていく若年層の日本医療の現状と展望についての理解への助力となることを目的とする。

研究方法

主に厚生労働省が提供しているデータ・資料から日本政府の医療課題への対処法と未来展望をレビューし、先行研究をもとに「保健医療 2035 の 5 提言」の実現可能性について分析・論述を行なった。

分析結果

わが国は今後、「入院医療から在宅医療へ」、「医療サービスを”量”から”質”の重視へ」、「自治体、看護・介護事業者など地域と医療機関を連携させ、統合的な保健環境へ」と時代の転換を図り、IT 技術の適切な利用による有限資源(ヒト・モノ・カネ・時間)の効率的活用を目指していることがわかった。

考察・結論

「保健医療 2035 の 5 提言」に着目し、その実現可能性を分析した結果、現状達成は困難であるという結論に至った。また、日本の医療制度の変遷に加え、医療法の改正、診療報酬改定、厚生労働省の資料をデスク調査した結果、わが国の医療課題は「国民の問題意識」、「医療 DX を支える強固なセキュリティ基盤の構築」、「医療・看護・介護の現場の待遇の改善と人手不足の解消」に大別されると結論づけた。最後に、若年層の社会保障に関する仕組みや課題への理解の重要性について論じた。